

第1章	グローバル化時代の 日本企業	P8
<p>環境認識 P8</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本企業は、国内外にかかわらず世界の企業と競合、競争にさらされている。 ●グローバル市場では、市場至上主義、国家資本主義等を中心に様々な経済モデルが入り乱れている。 ●一方で、Gゼロの世界、Gゼロ後の世界と言われ、世界200か国で大乱戦状態にある。 ●現在の地球環境の変動は歴史上明らかに異常。残り時間と選択肢が減る一方である。 		
<p>問題意識 P11</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本の経営のグローバル化への意識は、残念ながら世界のトレンドから相当遅れている。 ●視点が国内市場中心、海外でも競合は国内企業。 ●仲間と協同するオープン領域が少なく、全てを抱え込むフルセット垂直統合主義、自前主義でレバレッジが効かない経営スタイル。 ●衰退事業から撤退できず、成長投資もできずに停滞する経営サイクル。 ●地球や社会のサステナビリティの危機は十分認識するも、総花的で具体性を欠く取り組みに終始。 ●地球規模の課題は、国家の権益が複雑に絡み、遅々として進まず。 ●グローバル市場競争を戦うには不利な競争環境。 		
<p>改革の方向性 P20</p> <p>「経営者・企業は…」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル化による成長の機会を掴み、サステナビリティにも貢献する経営を行う。 ●グローバル化時代の激しい市場競争で成功し続ける。 ●地球や社会のサステナビリティに貢献する。 <p>「国は…」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバルに負けない競争環境づくりと、新産業、イノベーションを創出・育成できる環境をつくる。 		

第2章	持続可能な経営	P22		
<p>収益力とサステナビリティへの貢献の両立。両者の微妙な兼ね合い、せめぎ合いこそが経営。せめぎ合わせながら、いかに1つの企業活動にまとめるかが「持続可能な経営」の本質。</p>				
<p>持続可能な経営の実現 P22</p> <p>～「シャカイ」を「セカイ」に置き換えて～</p> <p><日本企業の現状> 社会における「役割と責任」をしっかり考える点で先進的（三方良し、200年企業世界一）。しかし、グローバル化の認識で遅れている。</p> <p><重要なポイント> 日本の顧客だけではなく世界の顧客に、また日本の社会だけでなく世界の社会に対して存在意義の大きな企業に進化すること。「シャカイ」を「セカイ」に置き換えて、「三方良し」を「Sampo-yoshi」としてグローバルな視野を持つ。</p> <p><アクション> 自らの存在意義を問い直し、本当に企業の理念をグローバルに追求できるか、自らのスタンスを明確にして発信する。グローバルをよく知った上で「わが社とは何なのか、日本とは何なのか」という自らのアイデンティティに関する問いに向き合う必要がある。</p>				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <p>持続可能な経営の定量化 P30</p> <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な経営を将来にわたって継続させる手法＝真の企業、価値の伝達 ▶四次元経営、統合報告 </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <p>「持続可能な経営」のキードライバー P33</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経営トップ ●人材 ●コーポレート・ガバナンス </td> </tr> </table>			<p>持続可能な経営の定量化 P30</p> <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な経営を将来にわたって継続させる手法＝真の企業、価値の伝達 ▶四次元経営、統合報告 	<p>「持続可能な経営」のキードライバー P33</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経営トップ ●人材 ●コーポレート・ガバナンス
<p>持続可能な経営の定量化 P30</p> <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な経営を将来にわたって継続させる手法＝真の企業、価値の伝達 ▶四次元経営、統合報告 	<p>「持続可能な経営」のキードライバー P33</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経営トップ ●人材 ●コーポレート・ガバナンス 			

第3章	グローバル化時代の 激しい市場競争で 成功し続ける経営	P36
<p>日本企業にとってのグローバル化とは P36</p> <p>▶貴社にとってのグローバル化とは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバルオペレーションを軸とした企業モデル ●成長を軸とした企業モデル 		
<p>差異化の創出と持続 P38</p> <p>▶最近市場競争において、他社との差異が短期間に平準化されてしまう、コスト競争になってしまうことに対する方針は明確ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ものづくり」から「ことづくり」へ ●オープンとクローズのシークエンスと国際標準 ●コストで負けない規模、仕組み ●グローバルマーケティング力を高める 		
<p>継続的なイノベーション P44</p> <p>▶イノベーションを継続的に創出するために取り組んでいる、具体的な施策はありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多様性をイノベーションの源泉に ●背水の陣を敷く ●脱自前主義 		
<p>グローバル市場環境に負けない経営スピード P49</p> <p>▶コーポレート・ガバナンスは、自ら（経営者）のモチベーションを最大限に引き出す体制になっていますか？</p> <p>▶貴社の経営サイクルが停滞していると感じますか？</p> <p>▶貴社の事業の推進スピードが遅いと感じますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コーポレート・ガバナンスを改革する ●経営サイクルを停滞させないスピード ●事業推進のスピードを上げる 		
<p>経営者の皆様への質問集 P74</p>		

第4章	地球や社会の サステナビリティへの 貢献	P58
<p>成長とは何か P58</p> <p>▶50年後、100年後の貴社のイメージはありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●成長の定義、我々が目指す成長とは何か <ul style="list-style-type: none"> ▶二段階変革論 ●サステナビリティのビジョンと取り組み <ul style="list-style-type: none"> ▶50年後、100年後のビジョンを描く ▶より高い次元の質、奥行きのある質を極める国 		
<p>地球、社会、企業のサステナビリティ P61</p> <p>▶地球や社会のサステナビリティのために、具体的なアクションを起こしていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各企業の取り組み 		
第5章	企業と国家	P66
<p>グローバルに負けない競争環境を P67</p> <ul style="list-style-type: none"> ●法人実効税率の25%までの段階的引き下げを ●環太平洋パートナーシップ協定、日・EU間の経済連携協定の早期締結を ●自由で公正な競争のための規制環境を 		
<p>継続的に新産業、イノベーションが創出できる環境づくりを P69</p> <ul style="list-style-type: none"> ●産業構造の新陳代謝を促進させる規制改革を ●イノベーションに必要な国家インフラを ●イノベーションを生かす知的財産の保護を 		
<p>魅力のある社会基盤づくりを P72</p> <ul style="list-style-type: none"> ●効率的で低コストな社会インフラの整備を ●グローバル視点で魅力のある国内市場に 		
<p>国家と企業が目指すべきもの P73</p> <ul style="list-style-type: none"> ●再生から、質の高い成熟へ 		